

越谷市における女性の学習活動

—子育て期の女性の学習実践活動報告—

小原伸子・青木玲子

The Activities of Womens Study-group in Koshigaya

—A report of the activities of a study group for mother
raising their children.—

Nobuko Obara · Reiko Aoki

In this paper, we report the activities of this group that was established in 1986, in Koshigaya as follows;

- I to state the purposes of this group.
- II to state the basic concept of the activity.
 - ① basic concept of mother as a relational existence.
 - ② contents of study.
 - ③ way of study.
- III to report the process of the activity of this group.
- IV to introduce the activities.
 - ① purposes of the study.
 - ② analysis of the activities.
 - ③ characteristic features of the activities.
- V Conclusion.
- VI The subjects for the next study.

はじめに

本報告は、1986年に開始され、現在に至っている越谷市における母親の学習会の経過と実践内容を、次の観点から叙述を進めるものである。

I 母親の学習会発足までの経過

II 学習活動にあたっての基本的な考え方

- 1 関係学的視点における「母親」
- 2 学習内容
- 3 学習方法

III 母親の学習会の経過

IV 実践活動の紹介

- 1 学習の目的・方法

2 実践活動の分析

3 実践活動の特色

V まとめ

VI 今後の課題

I 母親の学習会発足までの経過

母親の学習会は、1986年に文教大学幼児集団研究会に参加した母親を構成員として発足した。

この文教大学幼児集団研究会(以下集団研)は、関係学を基盤として1年間のプログラムで1980年度より開始され、以後9年間活動を継続している。集団研は、毎年3才児とその母親12組を募集し、子供集団、母親集団、リーダー集団を構成している。これらの三集団が、相対的に独立し、それぞれの目的を持ちながら、分化活動と合同活動を統合的に展開している。

集団活動によって、研究会は、自己も人も物も活かされる接在共存状況を共に創り出すことを目指している。その活動の体験が媒介となって、母と子は、それぞれの家庭において関係の発展を担える人として育つことが期待される。この会において母親は、3才児の母親としての役割のみならず、集団の担い手として、一人の女性として、一人の人間として参加することが期待される。短い学習時間のなかで、母親は、心理劇を体験しながら積極的に参加し、グループ研究活動においても毎年主体的なグループを形成して、1年間のプログラム修了時には、学習への強い意欲を示している。

集団研のスタッフとしてリーダー集団に参加して来た筆者らは、回を重ねる毎に母親達の学習意欲を貴重なものとしてとらえ、同時に集団研の母親集団は、越谷市の各地域に拡がっており、各年度毎の交流や、地域交流を深めることも期待した。子供が幼稚園に入園することで母親に時間的な余裕が出来る条件もあり、学習活動が、集団研の母親集団としての1年限りの活動ではなく、母親が子供を育てながらいつでも学習活動に参加出来る、

情報の得られる場として継続されることを願った。

1986年、集団研の顧問である佐藤啓子先生と筆者らは、学習内容や活動について話しあい、次に会の主旨と参加希望アンケートを集団研修者全員に郵送し、多くの賛成者を得ることが出来た。1986年5月、第1回の学習会を文教大学図書館会議室にて開始し、現在に至ったのである。

II 学習活動にあたっての基本的な考え方

1 関係学的視点における「母親」

学習会の構成員は、集団研の修了者であることから必然的に母親であることが基盤となる。この時期の母親の状況を子供との関係からとらえると、乳児期においては、母親と子供は家庭内での行動が多く、母と子の関係が強い。母親は、母親としての役割で精神的にも物理的にも拘束されていて、社会状況へのかかわりは成立しにくい。(Fig 1)

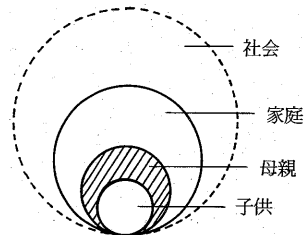


Fig-1

3才児期においては、集団研への参加により、母子共に家庭とは異なる集団とのかかわりが出来て、家庭での母子関係を発展させる運動が展開する。(Fig 2)

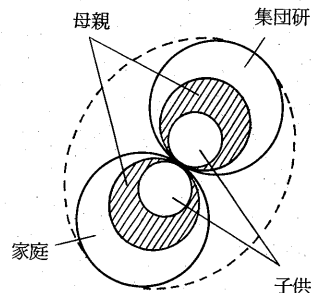


Fig-2

入園期以降においては、子供は母親に内接するあり方から、人間関係の拡がりや、規則性のある社会状況への参加を通して大きく成長する。母親は、物理的な拘束は少なくなるが、子供の関係状況が変化するにつれて、様々な場面で価値観が問われ、新しい母子の関係、新たな母親のあり方が問われることとなる。(Fig 3)

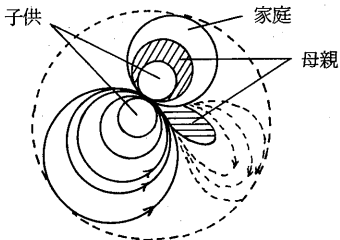


Fig-3

母親であることを関係学の視点からとらえて見ると、関係学において人間とは、『「関係的存在」であり、始源的・根源的な関係単位は自己・人・物である。』母親を自己として、このことを具体的に自己構造図で把えてみる。(Fig 4)

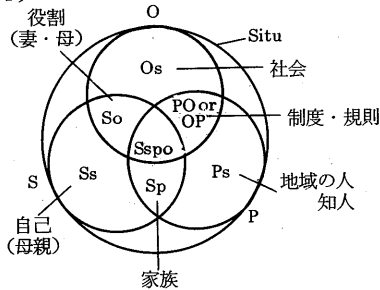


Fig-4

この自己構造図から考察すると、母親が母親自身を規定している役割は、自己における一つの領域にすぎず、単に子供との関係において役割を担うだけではなく、母親も一人の人間として、自己・人・物の関係状況のなかで、どの領域も自覚し、充実させることが自己の充実につながる事がわかる。

2 学習内容

Fig 4 で表示した関係的存在である母親のための学習内容は、自己構造図の各領域の充

実を目指すことが必要であると考えられる。

そこで学習計画の作成にあたっては、各領域における学習内容を内的・外的な二つの視点で検討する。

① 内的な視点 (自己とのかかわり)

a. 自己との関係 (Sp)

自己の内面や自己自身について知り語る。

b. 人との関係 (Sp)

自己とのかかわりある人々との関係を細かくとらえて、その関係を充実させる。

c. 物との関係 (So)

自己の役割・自己に必要な知識・情報を学ぶ。

② 外的な視点 (社会や状況とのかかわり)

a. 地域の人々や自己とは違う生き方をしている人々を知る (Ps).

b. 社会のあり方や制度を知る (OP or PO).

c. 知識、情報など社会に存在する物について知る (Os).

d. 常に変化する社会状況を把握する (situation).

内的な視点における自己の充実、内接的に同方向運動を起こしやすく、人の内的な意欲となる。また外的な視点における状況や体験の充実、異方向の運動として内的な意欲や充実感をさらに発展させることが考えられる。学習の内容については、二つの視点を接在的に交差させ、自己における各領域を充実させることが必要であると考えられる。

3 学習方法

学習内容の二つの視点から、学習方法については、単に自己の知識を蓄積することではなく、人とかかわりのなかで学習し、社会状況への主体的な参加が可能な方法について検討する。

① 内的な視点

a. 記録を取る (テープ録音など)

b. 学習会、総会では、必ず参加者全員が感想を述べる。

c. 話しあいは、全員参加のバズ形式とする。

d. 学習・研究内容については、発表の場

を用意する。

- e. 行為法として心理劇を導入する。

② 外的な視点

- a. 情報や文献収集の方法を学ぶ。
- b. 情報収集のために、各施設・行政機関の見学、対応をする。
- c. 講演会の開催により、メンバー外の人々との交流をする。

Ⅲ 母親の学習会の経過

1 経過

- ① 第1回 1986年5月～1987年2月
月1回、金曜日、計10回、10時～12時、
図書館会議室
＜総会＞ 1987年5月25日、10時～12時、
図書館会議室、内容：自己紹介、第1
回活動報告
- ② 第2回 1987年7月～1988年6月
月2回、月曜日・金曜日、計13回
9時30分～11時30分、図書館会議室
＜総会＞ 1988年7月8日、10時～12時、
図書館会議室。内容：活動報告、「お
はなし」坂本雅子氏、参加者の感想発
表
- ③ 第3回 1988年9月～1989年(活動中)
月2回、第1・3水曜日 9時30分～
11時30分、図書館会議室
＜講演会＞ 1988年11月16日 10時～12時
越谷市コミュニティセンター、内容：
「主婦とは?—近代日本における主婦の
誕生—」金子幸子氏
＜総会＞ 1989年4月19日 10時～12時
図書館会議室、内容：講演「越谷に暮
して」石井節子氏、活動報告、全員参
加の心理劇

Ⅳ 実践活動の紹介

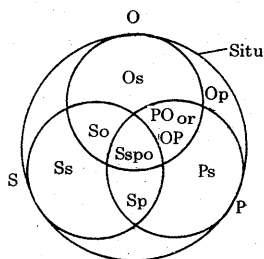
各回ごとに、次の観点で述べる。

- ① 学習の目的・方法
- ② 実践活動の分析

実践活動の分析は、学習プログラム、学習内容、学習方法についてまとめ、学習プログ

ラムと学習内容を自己構造図で分析する。

※ 自己構造図 (Fig 5)



S = 自己 Ss = 自己的自己
P = 人 So = 自己的物
O = 物 Op = 自己的人
Situ = 状況 Ps = 人的自己
PO or OP = 人的物および物的人
Sspo = 統合的自己

Fig-5

③ 実践活動の特色

実践活動の特色を、各回の●学習プログラム、●学習内容、●学習方法の特色について述べる。

1 第1回 (1986年5月～1987年2月)

① 学習の目的・方法

＜目的＞

- a. 関係学の基礎理論を学ぶ
- b. 家庭生活、地域活動、社会的活動を通して、実践即学習の活動を行う

＜方法＞

- a. 関係学の理論的学習 (講義・文献研究)
- b. 行為法 (心理劇) による学習
- c. 地域活動、研修会、講演会への参加
- d. 記録のまとめ方、参考資料の収集などの実務的な学習

② 実践活動の分析

表1 (141 p) 参照

③ 実践活動の特色

● 学習プログラム

関係学の基礎理論及び幼児集団研究会の主旨や活動内容と知識を深めるための学習プログラムが多く取り入れられ、参加者が共通の視点を持つための基盤作りの特色がみられる。

● 学習内容

講義形式が多いが、毎回感想を述べたり、

心理劇を取り入れて、ふるまいながら理解していく方法により、状況への積極的参加が見られる。又集団研についての理論的学習、参加観察としての参加体験により、自己体験の理論的確認と客観的な観察視点を学んだ特色が見られる。

● 学習方法

講義と心理劇とバズの組み合わせによる学習方法の特色が見られる、特に、関係学の理論を心理劇を使って、展開した特色がある。

2 第2回(1987年7月～1988年3月)

① 学習の目的・方法

<目的>

- a. 内的な視点と外的な視点によるプログラムを用意し、自己における関係的な視点の拡がりを体験する。
- b. 自己の主體的確立をめざす。

<方法>

- a. 文献研究。
- b. 発表者を決め、その後の話しあい活動を入れる。
- c. テープ録音をし、毎回の記録をまとめる。
- d. 情報収集の仕方、整理の方法を学習する。
- e. 二つのグループを作り、交流しながら内的な課題と外的な課題で学習会を進める。
- f. まとめ会など意見の報告、交流の場を設定する。

② 実践活動の分析

表2(142p)参照

表3(143p)参照

③ 実践活動の特色

<月曜グループ>

● 学習プログラム

外的な視点である「年金」がテーマになる。年金に関する制度や種類について学び、女性と年金について学ぶことから、年金の知識を伝えるためのパンフレット作りが組み込まれた。物(年金)を学ぶことから、物と自己、物と自己と人との関係の領域が広がった学習プログラムが展開した特色がみられる。

● 学習内容

年金の制度や種類などの知識を学びながら、女性のライフサイクルにおける年金制度の活用、女性の社会的地位や現状など、自己との関係で年金をとらえた。さらに、夫の給料、老護の生活と年金など家族との関係をとらえることにより、年金の知識を自己や家族とのかわりにおいて学習している特色がみられる。また年金制度をわかりやすく第三者に伝達したいと言う意欲もみられ、学習したことを自己にとどめず、第三者に広げようとする学習の特色も見られた。

● 学習方法

個別の文献調査、調査の報告、意見交換など、個別活動と集団活動と学習活動が多様化されたことに特色がある。調査を分担し、個別活動をすることによって、相対的独立をしながら、集団活動において統合していく個と集団が生かされた学習方法が展開している。

<金曜グループ>

● 学習プログラム

女性に関する本、家族に関する本のリストアップをし、その中で興味のある本を読むという共通課題から出発し、プログラムを参加者と共に企画し、毎回の発表者も全員がいぎわたるようにし、参加者の主體的な参加によるプログラムの特色がみられる。

● 学習内容

発表者が、テーマとの関連で、文献を発表し、自己の身近な体験を発表した。発表後必ず話し合い活動が行われ、各自の意見や感想を出しあうことによって、テーマに即して、自己の意見や客観的な意見もとり入れながら明確にしていく学習内容の特色がみられる。

● 学習方法

テーマに即して、発表者を決め、話し合い活動の後、その発表者が記録をまとめると言う学習方法の特色が見られる。

3 第3回(1989年9月～現在)

① 学習の目的・方法

<目的>

- a. 情報ノートを作成する

b. 情報の収集・整理・伝達についての実践的な技術を学ぶ

<方法>

- a. 情報ノート作成の実践活動
- b. 話しあい活動
- c. 調査活動(情報源へのアプローチ)
- d. 文献調査

② 実践活動の分析

表4 (144 p) 参照

③ 実践活動の特色

● 学習プログラム

プログラムは、情報ノートの作成という課題で、情報の収集・整理・伝達の3つのプロセスが具体的な作業として考えられた。しかし、収集の方法・視点について、実践の活動において様々な問題提起がなされ、収集・学習、整理・学習、伝達、と常に学習しながら作業を進めるプログラムとなった。

3年目に入ると、学習プログラムも活動のなかで話合われ、次回のプログラムについても日程を調整しながら、全員の協議・検討事項となった。

● 学習内容

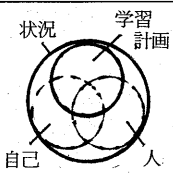
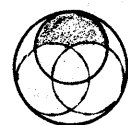

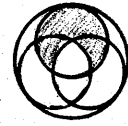
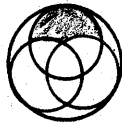
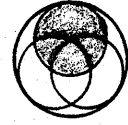
情報ノート作成のプロセスでは、具体的な

収集の技術を学び、実践的な学習方法を学んだ。さらに収集をする視点、情報ノート作成の目的などの話しあいから、私のこと、私と彼、私と彼と子供、私と家族と言う4つの視点が明らかになった。この4つの視点から参加者は、自己がどのような視点を必要としているか、とか自己が置かれている社会状況について新たに学習することとなった、また女性のライフサイクル、法律、制度についての自己とのかかわり、人とかかわりの視点を明確にして学ぶことが出来た。具体的な作業を通してむしろ、参加者の自己における生き方を内的・外的な視点で問い直す学習であったと言える。

● 学習方法

全体の話し合い活動から、情報ノートの4つの視点が明らかにされた時点で、視点による2つのグループに別れ、各グループで報告、交流しながら作業と学習をすすめた。グループ活動においても、3回目は、情報収集など各自が責任分担をすることが多く、目的に応じて各自が実践の場で学習方法を工夫した。全体的に活動は、社会的なかがわりが強く、各機関への調査・相談など体験学習に特色がみられた。

表1 第1回(1986年5月～1987年2月)

	学習プログラム	自己構造図	学習内容	学習方法	自己構造図
86' 5/30	・学習計画をたてる (学習計画案を提示)		<ul style="list-style-type: none"> ・リーター側のねらいと学習計画案を聞く。 ・情報収集の具体的方法を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式 	
6/13	・関係学の基礎理論(1)		<ul style="list-style-type: none"> ・関係学の基礎理論について、佐藤先生の講義を聞く。 ・「希望のつぼ」の心理劇をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・心理劇 	
7/11	・関係学の基礎理論(2)		<ul style="list-style-type: none"> ・先回の講義内容を、行為法を入れて復習する。 ・講義に対する感想・問題点を話しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行為法(心理劇) - なぞる学習。 ・討論 ・話しあい 	

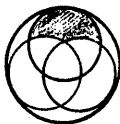

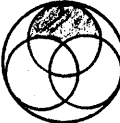

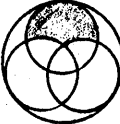
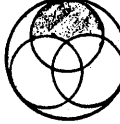
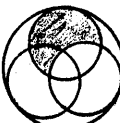
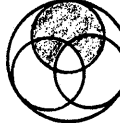
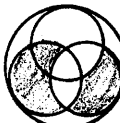
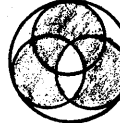

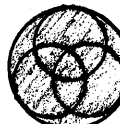
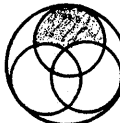
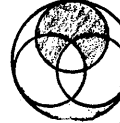
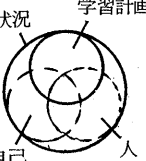
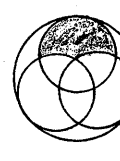
	学習プログラム	自己構造図	学習内容	学習方法	自己構造図
9/26	・L1 L2 L3 機能について		・L1 L2 L3 機能についての説明をきき、実際にどういう機能があるか心理劇を入れて考える。	・講義 ・心理劇 ・話しあい	
10/3	・幼児集団研究会の活動内容について		・幼児集団研究会のねらいや主旨を聞き、感想や質問を出しあう。	・講義 ・レジメ配布 ・討論 ・話しあい	
10/24	・関係の発達観について		・関係の発達観について、佐藤啓子先生の講義を聞く。	・講義	
11/21	・幼児集団研究会のリーダー体験(1)		・幼児集団活動におけるL1 L2 L3 機能について心理劇を通して、体験的にとらえる。	・講義 ・心理劇 ・話しあい	
12/2	・幼児集団研究会のリーダー体験(2)		・幼児集団研究会にリーダーとして(参加観察者)参加し、リーダー体験をする。	・実践体験 ・参加観察者体験 ・話しあい	
87 1/23	・舞台を使っ ての心理劇体験		・舞台の上を歩いてみる。 ・生協問題について、舞台を使って心理劇をする。	・状況(舞台)体験 ・心理劇	
2/27	・自己構造図について		・自己構造図の説明をきき、このことについて話しあう。	・講義 ・話しあい	

表2 第2回月曜グループ(1987年7月～1988年3月)

	学習プログラム	自己構造図	学習内容	学習方法	自己構造図
87 7/6	・日程の決定 ・内容についての検討		・日程の話しあいをする。 ・2つのグループができ、月曜グループは「年金」の学習を決める。	・話しあい ・調査方法 ①官公庁へ行く ②電話相談 ③文献調査	

	学習プログラム	自己構造図	学習内容	学習方法	自己構造図
9/28	・年金について		<ul style="list-style-type: none"> ・家族や自己と年金とのかかわりについて話しあう。 ・年金に関する体験や知識について話しあう。 ・調査の分担を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話しあい ・体験報告の発表 ・レポート作成 	
10/26	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい年金制度について ・年金の種類について 		<ul style="list-style-type: none"> ・調査事項を報告しあう ・収集体験を報告しあう ・毎回の話しあいをまとめる係を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話しあい ・報告 ・記録の保存 	
11/30	・女性と年金制度		<ul style="list-style-type: none"> ・女性のライフ・サイクルにおける年金制度の活用について話しあう。 ・女性の社会的地位や現状と年金制度について話しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話しあい ・報告・情報交換 ・記録の保存 	
12/14	・年金に関するパンフレット作成準備		<ul style="list-style-type: none"> ・年金制度を第三者に伝えたいという意欲が高まり、パンフレット作成が決まる。 ・まとめの準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話しあい 	
88' 3/7	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ・活動報告に向けて 		<ul style="list-style-type: none"> ・総会の時の活動報告に向けて、発表内容や形式を決める。 ・パンフレット作成の話しあいをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話しあい ・まとめ方 	

表3 第2回金曜グループ(1987年7月～1988年3月)

	学習プログラム	自己構造図	学習内容	学習方法	自己構造図
87' 7/6	<ul style="list-style-type: none"> ・日程の決定 ・内容についての検討 		<ul style="list-style-type: none"> ・日程の話しあいをする。 ・2つのグループができ、金曜グループは「家族・女性」がテーマとなる。 ・本のリストアップをして夏休みに読むことを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話しあい ・情報収集方法 図書館利用 	
9/18	・今後のプログラム内容の検討		<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み読んだ本と感想を報告しあう。 ・印象に残ったことや問題点を出しあい今後のテーマと担当者を決める。 ・記録の担当も決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話しあい ・黒板使用 ・テープをとる 	

	学習プログラム	自己構造図	学 習 内 容	学 習 方 法	自己構造図
10/16	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ 「今日の女性の状況と意識」 (Aさん担当) 		<ul style="list-style-type: none"> ・仲間におこった単身赴任についてみんなで考える。 ・担当者から歴史的な男女の流れを聞き、女性の意識の現状を話しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表形式 ・文献研究 ・話しあい 	
11/13	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ 「夫との関係」 (Bさん担当) 		<ul style="list-style-type: none"> ・担当者が自己自身の夫との関係を語り結婚について、夫婦について話しあう 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表形式 ・文献研究 ・話しあい 	
12/11	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ 「女の自立-子供との関係」 (Cさん担当) 		<ul style="list-style-type: none"> ・担当者がとらえた女の自立を發表し、子供との関係の問題点を發表する、それについて話しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表形式 ・文献研究 ・話しあい 	
88' 2/5	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ 「家族の関係」 (Dさん担当) 		<ul style="list-style-type: none"> ・担当者が、歴史的視点、現在の視点、未来の視点から、テーマに即して發表する。それについて話しあいをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表形式 ・文献研究 ・話しあい 	
3/4	ま と め		<ul style="list-style-type: none"> ・経過や内容をおさえ、学習したこと、発見したこと、気づいたことを話しあう。 ・まとめの仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話しあい ・まとめ方 	

表 4 第 3 回(1988年 9 月～現在に至る)

	学習プログラム	自己構造図	学 習 内 容	学 習 方 法	自己構造図
88' 9/21	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集 身近な情報の収集 ↓ 情報の交換 ↓ 情報内容の検討 		<ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集の可能性について考える。 ・情報源(情報誌機関)について調べる。 ・情報のアプローチの仕方について学ぶ。 ・情報の交換をする。 ・収集した情報を分類する。 ・収集範囲を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人個人が各機関に収集にでかける ↓ ・グループ活動 ↓ ・KJ法 話しあい 	
11/2 (4回)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の整理 		<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集の範囲と広報誌の目的について話しあう。 ・情報誌、本、新聞クリッピング、広報誌などのファイリングの仕方を学ぶ。 ・記録の方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動 ・話しあい 	

	学習プログラム	自己構造図	学習内容	学習方法	自己構造図
11/16	講演会 テーマ「主婦とは？-近代日本における主婦の誕生」 金子幸子氏	状況 講演 自己 人 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の状況を歴史的に客観的に知る. 会の運営に主体的に参加する. 案内・ビラなど情報の伝達にかかわる. 	<ul style="list-style-type: none"> 講演 質疑応答 	
12/7	<ul style="list-style-type: none"> 情報の整理 	情報 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の収集の視点について学ぶ. ①自己・人・物のかかわり ②女性のサイフサイクル グループを2つにする. 	<ul style="list-style-type: none"> 話しあい 	
4/12 (8回)	<ul style="list-style-type: none"> 情報の収集 情報の整理 	新しい情報 	<ul style="list-style-type: none"> 明確にされた視点①②で新たに情報を収集する. 女性のサイフサイクルについて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 個人収集 話しあい 	
89 4/19	<ul style="list-style-type: none"> 講演会 テーマ「越谷市に暮して」 石井節子氏 総会 活動報告 	講演 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な情報の必要性を知る. 情報に関する報告をする. 全員で心理劇体験をする. 	<ul style="list-style-type: none"> 講演 報告 全員参加の心理劇 	
5/10 活動中	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達 	情報 	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達の方法を学ぶ. 情報誌の構成・編集を学ぶ. 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動 話しあい 	

V ま と め

3年間の学習会の経過を振り返ると、学習プロセスと学習方法に2つの特色が考えられる。

1. 学習プロセスの三年間の経過をとらえると、第1回は、理論的に関係的存在としての自己を確認し、第2回は、自己と社会状況の内的、外的な視点から学習領域を拡げ、自己については、話し合い活動の中で内的に深化させる事が出来た。第3回は、情報ノート作成という課題を媒介として、自己の学習領域と社会状況との交差領域を拡げ、学習体験を日常生活の中で生かすことが出来た。

2. 学習方法については、様々な方法を工夫したが、特にグループ活動の意義がより効果的であったと考えられる。話し合い活動では、母親と言う共通の役割に理解と共感を持ち合うことによって、それぞれが、自己について深く語り合うことが出来た。また情報の収集など具体的な作業活動では、1人では出来ない作業を各自分担することによって協力体制を創り、様々な学習の方法をグループの話し合いによって産み出すことが出来た。

三年間の学習会において、母親達は、単に母親の役割を考えるにとどまらず、自己の領域を拡げることによって母親である自己を新しくとらえ、今後の生き方の可能性を問う学習

を成立させたと考える。

以下は、1989年9月に入って、今ここで語っていることを三年間をふり返りながら語っていただいた参加者の感想である。この感想は共に学んできた学習者のそれぞれの体験から出た素直な感想であり、学習の真の成果（評価）と筆者らは受け止めた。生のままここに掲載する。

○家庭の主婦というお仕事から非常にここへくると抜けられるんですね。例えば、先生のいろいろな情報を得たりとか、それから「今、こんな本がでてるのよ、」とか、そういう情報を得るだけでも、とって自分自身に、深みができて、たまたまそれを読まなくても、例えば、本屋さんに行き、積まれていると興味をもってめくってみるとか、それだけでもすごく、私にプラスですね、この三年間、自分自身をふり返ってみると、いろいろのものにチャレンジする、チャレンジ精神ができたという気がする。だから、実は…さっきみせびらかしのように、「お洋服作ったのよ」と言うんですけど、実は、私洋服ぜんぜん作ったこともないし、やったこともない人がやったからうれしいんです、本当に。もう、それがうれしくて、それでなんかやっぱり、でかけていって、例えば、図書館なら、図書館で、「あ、こんな着たいな」とかそういうものを見てやろうかな、という気になったというひとつの原動力になった気がするんですよ、……………私がこれから人生を生きていく上に、ここでいろいろ学んだものを、いろんなものに活用していけば、私は私なりに、すごく有意義な人生が歩めるんじゃないか。だから、この時間をこれだけにとどめないで、そのいろいろに活用していこうというひとつの原動力になったというのが、この三年間の私の成果です。（最初から参加しているSuさん）

○私は、三年というの最初にでたんですけど、その間、他のことで、他の方に行っていて時間の関係とかで来れなくて、昨年の終り位から、なんとなくこっちの方に参加してみたいな所があるんですけど、今までの、結局こどもが成長するのと一緒に、なんて言うんでしょ、

結婚するまでの私自身、女としての私自身と、結婚して母親になってからの私自身となんとなく切れている所があって、それでも自分自身はかわらないで、どうしたらいいんだろうかと、生き方をさがしていた訳ですけども、ここに来て、だんだんつながってきたというか、やはり、それこそ、例えば今、娘が中学一年になって、私はこうしたい、ああしたいというのを持ちながら、自分もその時をふり返ってみたりすると、何かつながるみたいで、私自身の生きて、そして大人になって、結婚して母親になってという部分と、女性というか、子供が大きくなっていく所が、なんか、だんだん結びついたようで、そして、子供が成長するのと同時に、今、この位の年齢になって、今まで全部がバラバラに興味をもったり、バラバラにいろんなことをやってきたことが、何となく一本になっていくんじゃないかなと、何となく感じてきたような気がするんです。ただ、まだまだいろんな意味で興味の持ち方が、あちこちの所もあるんですけど、でも、きっと若い時から考えてきたことが、やっぱりつながるんだな、というのを、今なんとなく感じてきました。（第3回から本格的に参加しているSiさん）

○すごく影響を受けさせていただいて、自分にとって、最近やっと悟る所が多いんですけども、ごく普通というか、意外と堅い家に育ってきて、女は結婚して夫にたよって生きるんじゃないけれども、そういう感覚で育てられたような、一応職業を持ちなさいとは言われたんですけども、やっぱり、だんなさんについてという感じで、そういう感じで育てられてきて、何でも主人に頼るというとおかしいんですけども、主人に、うまく言えないんですけども、不平、不満も全部あなたのせいよ、という感じで、結婚後ずっときていたんですけども、ここにきて、いろんな本とか、先生方とか皆さんと接しているうちに、あっそうじゃないんだということが、やっとわかってきまして、まず、自分で行動して、自分は自分というか、おんぶにだっこじゃなくて、自分なりに歩かなきゃいけないんだということを、すごく感じています。

この一年位で、この先の自分がだいぶはっきりと、こう、この先の自分を描けるようになったというか、それがすごくよかったなというか、ありがたいなと思っています。……すごく我ままで育ってきた自分がすごく見えてきて、本当にありがたいなと思っています。(最初から参加しているSuさん)

○私も集団研に行かせていただいて、やっぱりこのまま皆さんで、お母さんたち、今時々つながりはあるんですけど、それ以上につながりって大事ななと思って、途中だけれども、中に入らせていただこうかなと軽い気持ちで、いたんですけど、輪はすごく大事ななで、入らせていただいてすごくよかったな、と思って、やっぱり前向きに生きたいな、というのと、みなさんのそれぞれ、いろんな考えがあるけれども、考えを聞くというか、それだけでも、だいぶ違うし、子供はやっぱり子供ですけれど、自分の人生も納得していきたいし、だからすごくきっかけよく、入れていただいて、よかったと思っています。(去年集団研で母と子が参加し、1988年5月から参加している⑩さん)

○私も、いつも性格なんですけど、忙しくしてないといやなんですよ。常に何か、していないといけないというか、暇な時がイヤで、だからあっちこっち入っているんですけども、あっちこっち中途半端だなと思うんですよ、ここに来た時も、とにかく向上心というか、いつも刺激を受けていたいというのがありまして、来たんですけども、何か予想に反して、すごく難しいことをやっていますね、まあ、ちょっと足をつこんで、まずったかなと思ったんですけどね、何かやっぱし、小さい子供を持っている母親というのは、だいたい同じような感じであるんですけども、こちらの方たちは、もうちょっと大きくて、また全然違う世界で、みなさん全然違うまた世界があって、入れていただいただけでもすごくよかったなと思います。

人の輪とか、また別の世界に入ることが、大事な事だだと思います。常に刺激を受けていたし、今はちょっと何をやっていいかわからな

いんですけれども、これからずっと先何か自分で、あっこんなことやリたかったというのがあると思うので、それを期待してできるだけ続けさせていたきたいと思います。(去年集団研で母と子で参加し、1989年5月から参加しているIさん)

○私も集団研に参加したのは、結局、娘が内にこもる方なので、娘を見ていると自分の小さい時の性格がそのまま移行しているんじゃないかという不安があって、もしかしたら、自分がかわっていけば、少し娘も、いろんなお友だちと遊ぶきっかけを握めるのかな、と思って参加させていたいたんですけども、やはり、娘をきっかけにしてお友だちというのはいるんですね、今でも仲よくさせていただいているんですけど、結局その子が今、幼稚園へ行ってしまうと、自分がフリーになった時に、何かやっぱり物足りないというのがあって、いろんな人の間に入って、自分もいろんな刺激を受けていけば、少しは日常生活の見方とかそういうことから少しずつ変わっていけるんじゃないかなと思って、参加させていただいています。ただやっぱり、何かすごく不安なんです。はっきり言って、自分がついていけるかな、という不安は、漠然とつきまとっている感じはあります。(去年集団研に参加し、1989年5月から参加しているOさん)

○母親の勉強会は、本当に初期の頃から参加していて、今は、ドキドキという感じはなくて大きな顔をしてくるんですけど、ドキドキしたのは、かえって集団研の頃で、行きたくないなとか、ちょっと不安だなという気持ちを抱えて、通っていたように感じます。ここにきている意義とか、意味とかは、さっきSuさんが全部まとめていってくれたので、その通りだと思うんですね、ここで学んだことを実生活に応用させて、パネにしてということ、すごく感じて、自分もすごく実践しているなど、自負しているんですけども………違う自分も発見したかったし、もとの自分も取り戻したかったんです。それで、ここに来て、従々に取り戻してきたなという感じがあって、……ここ

で年金のことも勉強しました。それで、あっそうだな、ここで勉強したことを実生活で活用させなきゃと思って、年金のことをいろいろと勉強して、主人の共済の「〇〇年金」にも入りましてね、これで大丈夫だと思ったり、それから、婦人手帳を出版するとなった時には、経費がないんで、ワープロで印刷するというのをきいて、ワープロを購入して、Suさんと一緒に勉強して、ある程度打てるようになりました。そうこうしてますうちに、再就職とかという学習に入って、私も子供が幼稚園に入って小学生になり、自由な生活を3年もしていますと、やっぱり、その先のことをずっと通して見なくてはいけないという時期にさしかかってきて、こどもも一人だったので、手もかかりませんし、再就職もすぐ考えて、ちょうど勉強させていただきまし、でも一年生で小さいから、段階をふんでいこうということで、モニターなんかをずい分参加させていただいて、今年は、すごくいい機会にめぐまれました、越谷市で3名の中の〇〇〇のレデースモニター、結構高収入なのにも応募しまして、めでたく選ばれました、ただ今やっております。他にも2~3やっているのですが、そういったことで、すごく目が開けてきて、いい状態だなと、本当に、ここと日常生活とが密着しているなど、ひしひしと感ずるのです。(最初から参加しているSuさん)

- …………結婚と同時に、前の生活というか、自分の性格が変わったように、回りからされたんじゃない、自分から引っ込んだんじゃない、子供もいるし、外にでたらいけないというふうに自分でも思いこんでいました、何にもする気がなくて、ただ子供という生活が長かったんですけれども、何かここに思い切って出席して、去年からなんですけれども、出席するようになって、何かちょっと変わりつつあるな、今年位から変わりつつあるなと思ってきました。それは、いろいろ今まで研究してきて、研究というとちょっとオーバーですけれども、調べものやなんかしてきて、いろんな所、まっ市役所関係にちょっと行ったことはあるんですけれども、今までだったら、何か足が向かなかったんです

よね、なかなか、ところが、それをきっかけに、あっ、どんなことでも聞けば、かんたんに教えてくれる、聞けばいいんだな、という感じで、家に黙っていたんじゃない、だめだな、ということが、ちょっとわかってきました。皆さんよりもずっと遅れていますけれども、時々やめよかな、や、どうかなといつも考えていますけれども、みなさんの考えをきくのもいいかなと思って、参加しています。(1988年5月から参加しているTaさん)

- この会から離れるのは、こわい、失いたくないなと思って、最後の方だと思いつつ、いつも迷惑だなと思いつつ、行かなくなったら、また行かなくなっちゃうだろうな、一回行かなければ、二回三回とまたいいや、行かれないわ、というふうに思っちゃうんで、少しでも行きたいなと、最後の方だけでもつながるかな、という感じですね、失いたくないという感じです。(去年4月からパートの仕事をはじめ、その前までは、熱心に参加してくれていました。今は時間ができると参加してくれているOさん)

VI 今後の課題

越谷市における女性の学習活動をさらに広げる為には、越谷市の女性の現状を把握することが今後の課題である。特に女性の学習意欲・意識調査、学習施設・人的交流など学習条件についても調査研究しなければならないと考える。

また母親の学習会は、今後も継続されるが、女性のライフスタイルの変化に伴って、母親達も様々な生き方を選択することになると考えられる。子育て期の母親に限らず、小学生・中学生・高校生の子供を持つ母親、そしてこれから母親になろうとする女性、働く母親、これから働こうとする母親、様々な生き方をする母親達の学習の場として、勉強会が開かれた場としてある為の運営の方法、学習内容・方法について研究したいと考えている。

おわりに

1986年から始まった「母親の学習会」の活

動経過をまとめて見ると、何と多くの充実した学習内容が展開していたかを改めて実感させられた。

参加者一人一人がかげがえのない一員であることを確認し、参加者一人一人の活動が、さらに共に学び、共にプログラムを開発して行こうとするエネルギーを湧きたたせるものであった。

これからも、母親の学習会が越谷市において大きな輪となって広がって行くことを期待したい。また、参加者が、越谷の各地域で主体的に学習活動を担って活躍することを期待したい。

講演を心良く引き受けて下さった、坂本雅子氏、金子幸子氏、石井節子氏に感謝いたします。

また何回かの講義を心良く引き受けて下さり、常に助言をして下さった顧問の佐藤啓子先生に感謝いたします。

参 考 文 献

- ①松村康平、佐藤啓子「かかわり方の発展に関する研究(1)～(2)」日本応用心理学会第42大会発表論文集、1975～1976。
- ②佐藤啓子「関係発展に関する一考察一関係状況運動の展開を中心として」関係学研究第5巻第1号、1977。
- ③日本私立幼稚園連合会編「幼児の性格形成一関係発展の保育一」ひかりのくに、1976。
- ④松村康平「保育関係論」『保育学の進歩』フレール館、1977。
- ⑤小原伸子・青木玲子「文教大学における関係学の展開一幼児集団研究会の活動を中心として」関係学研究第15巻第1号、1987。
- ⑥青木玲子「母親の自己形成についての関係学的考察」関係学研究第12巻第1号、1984。
- ⑦佐藤啓子「家庭における人間形成」高文堂出版社、1986。
- ⑧島中徳子・大戸美也子共編「今日の家庭教育」建帛社、1983。
- ⑨天野正子「第三期の女性」学文社、1979。
- ⑩伊藤雅子「子どもからの自立」未来社、1978。
- ⑪神田道子・女子教育問題研究会編「学習する女性の時代」日本放送出版会、1981。
- ⑫加藤恭子「家庭婦人の知的活動のために」未来社、1981。
- ⑬ルイ・ジュヌヴィ、エヴァ・ユルゴリー「母親ノ」朝日新聞社、1989。
- ⑭青木やよひ「母性とは何か」金子書房
- ⑮鈴木裕子編・解説「戦後母性の行方」トメス出版、1985。
- ⑯繁多進・大日向雅美編「母性・こころ・からだ・社会」新曜社、1988。
- ⑰丸山昭三郎他編「情報アクセスのすべて」日本図書館協会、1989。
- ⑱金子都容「ネットワークへの招待」中央公論社、1986。
- ⑲親睦人「情報社会をみる目」有斐閣、1983。
- ⑳指生勁吾編「学習情報の提供」全日本社会教育連合会、1987。
- ㉑石堂豊・森口兼二編「変貌する時代と生涯学習」亜紀書房、1988。
- ㉒小原伸子「生涯教育における家庭教育の課題」『人間科学紀要』文教大学人間科学部、1982。